

『補助金等の交付により造成した基金等に関する基準』等に基づく公表資料

1. 基金の概要（平成 25 年度）

基金の名称	環境保全型経営促進基金
法人名	公益財団法人日本環境協会
基金額（国庫補助金等相当額）	137 百万円（137 百万円）（平成 25 年 4 月 1 日現在）
基金事業の概要	温暖化対策に係る環境配慮型融資として行われる金融機関の融資に係る利息の一部（3%相当を上限）について、3 年又は 5 年以内の間に二酸化炭素排出原単位又は二酸化炭素排出量を 6%又は 10%改善・削減を誓約する事業者に対し、金利負担の減免のための利子補給金を交付する。

2. 見直し結果（平成 25 年度）

項目	講ずる措置
基金事業を終了する時期	平成 27 年度 京都議定書目標達成特別支援無利子融資利子補給金交付事業実施要領第 8 において、以下のとおり、規定。 第 8 事業を終了する時期 (2) 事業を終了する時期 事業を行う期間は、平成 27 年度末までとする。
次回の見直し時期	平成 26 年度 本事業は、後年度負担が発生する事業に該当する。標記基準においては、後年度負担が発生する事業は新規申請の受付を終了した年度以降、毎年度、基金の取扱を検討することとされていることから、次回の見直し時期を平成 26 年度としている。
基金事業の目標	金融機関が行う環境に配慮した融資制度のうち、地球温暖化対策に係る設備投資のための融資を受ける事業者に対し、必要な経費を助成することにより地球温暖化対策のための設備投資を促進し、二酸化炭素の排出削減を推進する観点から、温暖化対策に係る環境配慮型融資に係る借入金の金利負担を安定かつ確実に減免する。
目標達成度の評価	指定金融機関及び融資案件の新規募集を終了したため、利子補給金の支払、誓約の達成状況の確認等を実施。当該年度までに誓約を達成した案件は、39 件中 30 件となり、着実に二酸化炭素排出量の削減が促進されている。
基金の保有割合	算出した保有割合は、22.83 であった。算出に用いた方法及び数値は、以下の通りである。
基金の保有割合の算出	算出方法 (算出に用いた方式) 保有割合 = 直近年度末の基金額 ÷ 事業が完了するまでに要する利子補給額及び管理費

		<p>(算出に用いた数値)</p> <p>直近年度末の基金額：137 百万円 (平成 24 年度末の基金額)</p> <p>事業が完了するまでに必要な利子補給額及び管理費：6 百万円 (想定必要額)</p>
使用見込みの低い基金等の 取扱いの検討結果	使用見込みの低い基金等の該当の有無	<input checked="" type="checkbox"/> 有・無
	有の場合の該当理由 基準 3 (4) ア【基準】の に該当 なお、基金の保有割合が前年度と比べ増えた理由としては、交付の取り消しによって必要な補助額が減少し、また、運用益の改善により基金の残高が増加したため。	
	(使用見込みの低い基金等に該当する場合の検討の結果) 平成 25 年度 9 月の最後の利子補給金支払後に国庫に保有額の一部を返納する予定。 本事業について、交付決定案件に対する利子補給は平成 25 年度で終了するが、二酸化炭素出達成のモニタリング期間のため、事業終了は平成 27 年度を予定している。 それに伴い、事務費も平成 27 年度まで支出予定のため、保有額を国庫に全部返納するのは、平成 27 年度の事業終了後になる。	